

## 28A-08

## 紅参末（正官庄）は糖代謝を改善し得るか —Urine-Connecting peptide immunoreactivity (U-CPR)—

河内総合病院糖尿病外来<sup>a)</sup>, 東海大学 医学部 分子生命科学<sup>b)</sup>,  
 関西医科大学 第一内科<sup>c)</sup>  
 鉄谷多美子<sup>a)</sup>, 山村雅一<sup>b)</sup>, 山口多慶子<sup>c)</sup>

【緒言】紅参末（正官庄，RG-1）は尿中Connecting peptide immunoreactivity (U-CPR) を，正常基準値内に保持し得たことを，第15回本学会で報告した。今回はU-CPRを経時的に測定し，RG-1投与におけるU-CPR値と，血糖コントロール状態などを検討した。

【対象，方法】1997.12～1998.12月までにU-CPRを経時的に，測定し得たインスリン非依存性糖尿病（NIDDM）71例である。これを，RG-1 6g/日投与9例，RG-1 3～4.5g/日26例，紅参非投与（RG-0）群30例，RG-0からRG-1 6g/日6例の4群に分けた。なおこの71例は，糖尿病専門外来に2～3週に1度は通院中である。

【成績】1. RG-1 6g/日投与群（投与期間10.8±1.6カ月）9例のU-CPRは投与前25.4±12.5ng/mlから投与10カ月後は，55.1±22.3ng/mlと明らかに増量（ $P<0.005$ ）した。

2. RG-1（3～4.5g/日）を長期間（37.7±25.9カ月）投与していた26例では，測定開始時48.7±25.6ng/mlと正常基準値内であった。この群の12カ月後のU-CPRは65.1±29.6ng/mlと正常内で経過し， $P<0.05$ であった。

3. RG-0群の30例のU-CPRは35.3±13.9ng/mlで，12カ月後は30.7±8.7ng/mlで経過し，有意差を認めなかった。

4. U-CPRが30ng/ml以下であったRG-0群6例に，RG-1 6g/日投与を開始した。投与8カ月後では（19.0±8.7ng/ml→38.4±33.6ng/ml）と差異をみとめなかった。

【考按】U-CPRの経時的測定からRG-1 6g/日投与群のU-CPRの増量は，10カ月後で明らか（ $P<0.005$ ）であった。またRG-1 1日3～4.5g投与でも，長期間服用すればU-CPRを，正常基準値内に保持し得た。

U-CPRは腎臓の排泄能に左右され，また，インスリン分泌量との相関性は，必ずしも良好でないとの問題点もいくつか存在するので，血中-CPR，IRIなどからも検討すべきである。